

vol.
3

2026年1月号
TAKE FREE

てとて

特集

知多半島総合医療センタードクターカー



新年のごあいさつ

知多半島総合医療機構

理事長

渡邊和彦



から9ヶ月が経過し、着実に地域の医療ニーズに応えるべく、診療機能や医療スタッフの体制強化を進めてきました。

新春を迎え、皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より、知多半島総合医療機構に対し格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年4月1日、当機構は「知多半島総合医療センター」と「知多半島りんくう病院」、「訪問看護ステーションきずな」で、地域医療のさらなる充実と発展を目指して歩み始めました。

知多半島総合医療センターは、最新の医療設備を備え、地域住民の皆様にも最先端の医療を提供することを目的としており、地域医療の拠点としての役割を果たしています。開院

知多半島りんくう病院は、急性期から回復期・在宅までの医療を提供する病院として、特に集中的な回復期リハビリテーション医療や地域包括的な治療を必要とする患者様への対応に力を入れております。

両病院はそれぞれの強みを生かし、相互に連携を深めながら、地域医療の充実に貢献しています。

当機構は、医療の提供だけでなく、地域の皆様の健康づくりや予防医療にも積極的に取り組んでいます。機構理念「私たちは、地域医療の中核を担い、知多半島の人々の健康を支え続けます」を大切にし、地域住民との対話や協力を通じて、より豊かな

な地域社会の形成を目指しています。今年度では、定期的に公開講座や地域住民参加型のイベントを開催し、地域全体で健康意識を高める取り組みを行っています。

本年は、さらに改革を進め、医療の質の向上と患者様の満足度向上を目指していきます。現在も医療スタッフの教育体制の強化や、ICT技術を活用した診療の効率化・迅速化に取り組んでおり、患者様がより便利に、より快適に医療を受けられる環境づくりを進めています。また、地域住民の皆様とのコミュニケーションをさらに強化し、医療ニーズに即応できる体制を整えるとともに、地域包括ケアシステムの推進にも注力してまいります。

私たちは、今後も「地域に根差した医療機関」として、地域貢献を第一に考え、皆様が安心して暮らせる環境づくりに機構職員一丸となって邁進していく所存です。本年も引き続き、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

訪問看護ステーションきずな

所長 渡邊和子



新年あけましておめでとございます。

旧年中は訪問看護ステーションきずなの活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。皆様のご自宅での療養が少しでも安心して心地よいものとなるよう、看護・リハビリスタッフ一同が日々努め、多くの方の暮らしに寄り添うことができた実感しております。

本年も、「看護にできずなを紡ぐ赤い糸」という理念を胸に、一人ひとりが、その人らしい場所、その人らしく、過ごせるよう、支援を続けていく所存です。地域と病院をむすぶ架け橋として、小さな不安にも寄り添い、あたたかな絆を積み重ねていく一年にしたいと思います。皆様にとって穏やかで健やかな一年となりますようお祈り申し上げます。とともに、本年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

知多半島総合医療センター

院長 岡田 禎人



皆様、あけましておめでとうござ
います。健やかに新年をお迎えのこ
ととお慶び申し上げます。

旧年中は、知多半島総合医療セン
ターの運営に多大なるご理解とご支
援を賜り、心より御礼申し上げます。
昨年4月に新病院が開院し、早く
も9ヶ月が経過いたしました。開院
当初は移転に伴う診療制限や、その
反動と思われる病床満床状態、慣れ
ない新設備・新機器への対応などで、
ご迷惑をおかけすることも多々ござ
いました。半年が経過した頃から
は、様々な状況が安定を取り戻し、
落ち着いた運営ができるようになって
きています。よりよい運営を行う
準備が整ったと感じています。

また知多半島りんくう

病院（旧常滑市民病院）

との診療・経営統合によ
り、従来行っていた連携
をさらに強化し、医師を
含む職員の相互異動や連
携体制の構築、手術後の
患者様がスムーズにリハ
ビリへ移行できる仕組みづくりなど
様々な取り組みを行っています。こ
の事業はまだ始まったばかりである
と考えています。

今後も両病院、および地域の医療
機関との連携を積極的に推進してま
いりたいと考えています。

本年も、「知多半島の皆様の健康
を支え続ける」ために、より信頼さ
れる医療機関を目指して尽力してま
いります。

皆様のご健康とご多幸を心からお
祈り申し上げますと共に、本年も知
多半島総合医療センターにご指導ご
鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく
お願い申し上げます。

知多半島りんくう病院

院長 野崎 裕広



新年あけましておめでとうござい
ます。

当院と知多半島総合医療センター
を束ねる知多半島総合医療機構のも
と、昨年4月から、常滑市民病院は
“知多半島りんくう病院”として歩
み始めました。地域の皆様に支えら
れ、新しい年を迎えられたことに心
から感謝申し上げます。

当院は、3次救急を担う知多半島
総合医療センターと機能を分け合
いながら、知多半島中南部における
「一般急性期から回復期、退院支援
まで切れ目のない医療」を提供でき
る病院づくりを目標としています。
地域の皆様や近隣診療所・クリニッ
クからの医療相談等の役割を果たす

一般総合診療に加え
て、当院ならではの
専門的診療である腎
臓の専門診療と透析
治療、ロボット手術
も駆使した婦人科診
療、必要とされる方
へ寄り添う不妊治療、

そして全国でも数少ない特定感染症
の診療につぎましても、より一層の
充実化を図っていく所存です。また
今年は、皆様が退院後に円滑に社会
復帰できるような支援機能を充実す
べく組織・病棟編成の変更も進めて
いく予定です。

私共が大切にしているのは、前身
常滑市民病院時代と同様に医療の根
幹であるコミュニケーションです。
信頼関係を築き、誠実な姿勢で診療
に臨む所存です。新しい一年が皆様
にとって健康と幸福に満ちたものと
なりますよう、心よりお祈り申し上
げます。

本年もよろしくお願いいたします。



ドクターカーの役割

最大のメリット

治療開始までの時間を短縮できること

医師と看護師、救急救命士が救急現場へ直接向かうことで、救急隊と連携しながら、医師（救急医）による専門的な医療行為を現場から開始することができます。この迅速な初期治療が救命率の向上や後遺症の軽減など、その後の回復に大きく影響すると言われています。

当院のドクターカーは「いち早く」駆けつけることは大前提のうえ、知多半島で三次救急を担う救命救急セン

知多半島総合医療センター
助かる命に駆けつけたい。1秒でも、早く。
「ドクターカー」

1 より広域に 知多半島全域に駆けつける

ターとして「より広域をカバーすること」、そして地域中核災害医療センターとして「南海トラフ巨大地震などの自然災害にも備えること」の2つが求められています。

2 迫りくる大規模災害への 備えとして

範囲を知多半島5市5町すべてへと拡大。これまで要請対応ができる消防本部は1つでしたが、移転後は7つの消防本部からの要請に対応しています。

知多半島総合医療センターが知多半島中心部へ移転したことに伴い、出動

いつ起こるかかわからない、南海トラフ巨大地震。
災害発生時には多くの負傷者が発生

ドクターカー出動範囲

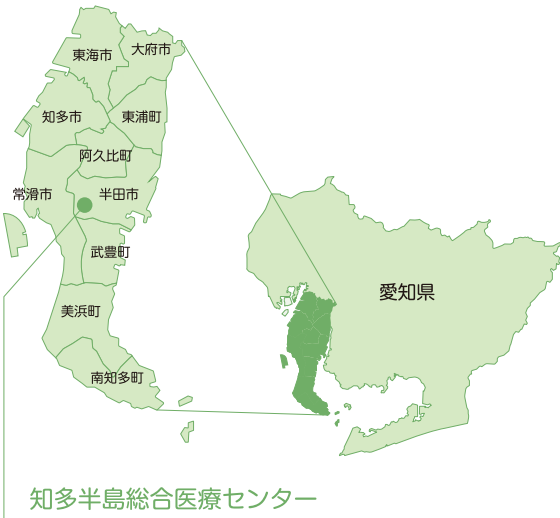
知多中部（半田市・武豊町・阿久比町・東浦町）

令和7年4月～

知多半島全域に拡大！

人口：約 61万7千人

総面積：約 392km²



知多半島総合医療センター



ダイヤモンド・プリンセス号での患者搬送の様子



能登半島地震での災害医療活動

する中で、ドクターカーの機動力はまさに「命綱」となります。当院ではDMAT（災害派遣医療チーム）も有しており、災害時にもこの地域の医療機能を維持し、一人でも多くの命を守るという重大な責任を負っています。

私たちは日頃から災害訓練や他機関との情報共有体制の強化を行い、途切れない救急医療体制を構築しています。

おしごと図鑑



救急救命士

院内外で救急をリードする
スペシャリスト

急病や事故の現場で命を救うための処置を行う国家資格。医師の指示のもと高度な救命処置を行い、初期対応から搬送まで、患者の命をつなぎます。医師や看護師と連携し、院内外で迅速かつ高度な救急対応を支えています。

クリティカルケア認定看護師

高度な看護で命を支える
エキスパート

日本看護協会による認定資格。突然の病気やけがの患者を高度な知識と技術で支えます。患者やその家族が抱える様々な問題にも介入し、医療と患者・その家族の架け橋となり、チーム医療の中心的役割を担います。



救急医

瞬時の判断で命をつなぐ
救急医療の要

日本救急医学会が認定する救急科専門医の資格を持ち、突然の病気や大きなけがで命の危険がある患者を診察します。限られた時間の中で治療の優先順位を判断し、地域の命を守ります。



ドクターカー紹介

ドクターカーの出動は、消防が判断します。出動が必要など重篤な状態であると判断された場合、消防から病院に連絡が入ります。要請が入るとすぐに医師、看護師、救急救命士がドクターカーに乗り込み出動します。現場に向かいながら消防と連絡を取り合い、傷病者の情報を確認し、治療器具や薬など必要なものを準備します。

出動までの流れ



消防からの出動要請



出動



消防と連絡を取り合いながら現場へ移動



処置、治療開始

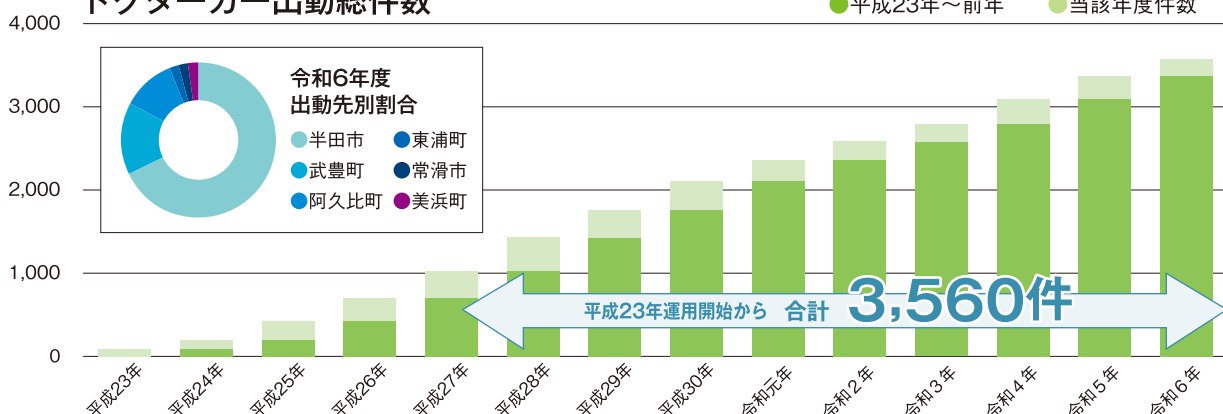


病院へ搬送

直接ドクターカーを呼ぶことはできません。

119番通報は救急車（や消防車）が必要なときに呼ぶためのものです。ドクターカーの出動は、消防が要請する場合に限ります。

ドクターカー出動総件数



ドクターカー出動総件数

寄 附 募 集 中

医師と看護師を乗せて救急現場へ駆けつけ、いち早く治療を行う
“走る救命室”ドクターカー。

2025年4月、出動範囲を知多半島全域に拡大しました。
長年の使用により老朽化したドクターカーを更新します。
皆さまの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

ご寄附
のお願い

第二目標
3,600万円

募集期間

2026年2/13(金)23時まで



公式サイト



知多半島総合医療センター・知多半島りんくう病院にて、現金での寄附も受け付けております。インターネット上での手続きが難しい場合は、知多半島総合医療機構までご連絡ください。

問合せ

知多半島総合医療機構 経営企画課 経理係



0569-89-0515(代表)

市 民 公 開 講 座

「腸が変わると人生が変わる? “腸内細菌”のすごい力」

腸には多くの細菌がすみ、消化だけでなく免疫や心の健康にも関わっています。
今回は腸内細菌の働きや、日常でできる腸を整えるコツを解説します。

先着
100名

参加費
無料

■日 時 2月21日(土) 14時～16時

■場 所 知多半島総合医療センター 講堂

■申し込み 申し込みフォームまたはお電話にて
2月6日(金)までにお申し込みください。

申し込みフォーム▶



■問 合 せ 知多半島総合医療機構 経営企画課

☎0569-89-0515(代表)

■内 容

- 「腸内環境と健康の科学：毎日の生活でできる腸の整え方」
藤田医科大学医学部消化器内科学 主任教授 廣岡芳樹先生
- 「食酢摂取習慣によるお通じ改善の可能性」
(株)Mizkan Jplus Holdings様
- 「腸どいい食生活で超元気！腸活講座」
ちょう ちょう
知多半島総合医療センター 管理栄養士



地方独立行政法人

知多半島総合医療機構